

加工用抹茶生産のための 寒冷紗の被覆期間と生葉収量・品質

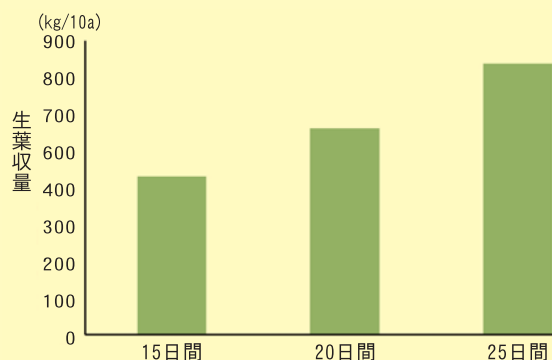


図 被覆期間別の生葉収量

注) 遮光率85%の黒色寒冷紗を1.5葉期から所定の期間茶株に直接被覆した。



写真 寒冷紗被覆を行った茶園

注) 左：遮光率85%の黒色寒冷紗を1.5葉期に20日間被覆した茶株。
右：無被覆栽培の茶株。

表 被覆期間別の荒茶品質

被覆期間	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計
15日間	20	20	19	20	19	98
20日間	19	19	20	19	20	97
25日間	18	18	18	18	18	90

注) 茶業試験場職員2名により普通審査法で審査、各項目20点満点。

抹茶はその機能性および濃緑色の色沢や香味などが注目され、それを添加した加工品が増加しています。近年、生産組合やJAなどが煎茶の粉末を加工用として販売していますが、煎茶では色沢や香味が抹茶に比べて劣ることから、加工用抹茶の簡易な生産技術の開発が望まれています。

そこで、寒冷紗を茶株に直接被覆して栽培する技術について検討しています。ここでは、遮光率85%の黒色寒冷紗を用い、一番茶の1.5葉期から被覆する期間を15日間、20日間、25日間として、生葉収量と品質について調査しました。

25日間被覆では、収量が最も多くなりま

したが、品質が劣りました(図、表)。また、15日間被覆では、品質は良かったものの、収量が少なくなりました。一方、20日間被覆では、収量は25日間被覆よりは少なかったものの15日間被覆よりも多く、品質は25日間被覆よりも優れたことから、遮光率85%の寒冷紗を1.5葉期から被覆する場合の被覆期間は、20日間が良いと考えられました。

今後、さらに遮光率や被覆開始葉期、被覆期間と収量品質の関係を明らかにするとともに、蒸し時間や乾燥温度などの製造技術についても検討する予定です。

(茶業試験場 邑田修三 0889-32-1024)

高知県農業技術センターニュース 第70号 平成25年1月1日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 岩崎 昭雄

農業技術センター

〒783-0023 高知県南国市廿枝1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

農業技術センター山間試験室

〒789-0315 長岡郡大豊町中村大王3523-7

TEL (0887) 72-0058

FAX (0887) 72-1544

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064 高知市朝倉丁268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801 吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>